

物性物理学 No.3

61908697 佐々木良輔

問 1

E_k^0 は波数 k の平面波のエネルギーに等しいので

$$\begin{aligned} E_k^0 - E_{k-h_1}^0 &= \frac{\hbar^2 k^2}{2m} - \frac{\hbar^2 (k-h_1)^2}{2m} \\ &= \frac{\hbar^2}{2m} \left(\left(\frac{\pi}{a} - \Delta k \right)^2 - \left(-\frac{\pi}{a} - \Delta k \right)^2 \right) \\ &= -\frac{\hbar^2}{2m} \frac{4\pi}{a} \Delta k = \frac{2\hbar^2 \pi}{ma} \Delta k =: \Delta E \end{aligned} \quad (1)$$

問 2

$$\begin{aligned} E_{\pm} &= \frac{1}{2}(E_k^0 + E_{k-h_1}^0) \pm |V_1| \sqrt{1 + \left(\frac{\Delta E}{2|V_1|} \right)^2} \\ &= \frac{\hbar^2}{2m} \left(\left(\frac{\pi}{a} \right)^2 + (\Delta k)^2 \right) \pm |V_1| \sqrt{1 + \left(\frac{\Delta E}{2|V_1|} \right)^2} \end{aligned} \quad (2)$$

ここで $\Delta E \propto \Delta k$ であることから $(\Delta E/2|V_1|)^2 \ll 1$ とすると

$$\begin{aligned} E_{\pm} &= \frac{\hbar^2}{2m} \left(\left(\frac{\pi}{a} \right)^2 + (\Delta k)^2 \right) \pm |V_1| \left(1 + \frac{1}{2} \left(\frac{\Delta E}{2|V_1|} \right)^2 \right) \\ &\simeq \frac{\hbar^2}{2m} \left(\frac{\pi}{a} \right)^2 \pm |V_1| + \left(\frac{\hbar^2}{2m} \pm \frac{\hbar^4 \pi^2}{2m^2 a^2 |V_1|} \right) (\Delta k)^2 \\ &= E_{\frac{\pi}{a}}^0 \pm |V_1| + \frac{\hbar^2}{2m} \left(1 \pm \frac{\hbar^2 \pi^2}{ma^2 |V_1|} \right) (\Delta k)^2 \\ &= E_{\frac{\pi}{a}}^0 \pm |V_1| + \frac{\hbar^2}{2m} \left(1 \pm 2 \frac{E_{\frac{\pi}{a}}^0}{|V_1|} \right) (\Delta k)^2 \end{aligned} \quad (3)$$

問 3

(3) 式から分散関係は $k = \pi/a$ 近傍において図 1 のように 2 次曲線的な振る舞いをすると考えられる。また $2E_{\frac{\pi}{a}}^0/|V_1| > 0$ なので E_- の曲率は E_+ よりも小さいことがわかる。また基底状態の分

散関係は図 2 のようになめらかに繋がっているべきなので E_- の $(\Delta k)^2$ の係数は負となるべきである。すなわち $|V_1|$ の大きさは $E_{\frac{\pi}{a}}^0$ に比べて十分小さいか、せいぜい同程度であるべきであり、そうでなければ摂動近似が成り立たないと考えられる。

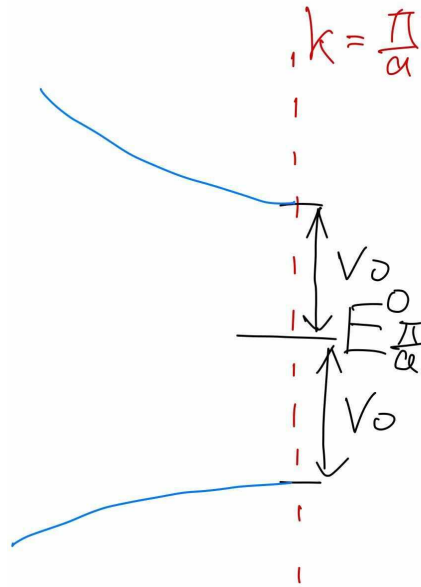


図 1 $k = \pi/a$ 近傍での振る舞い

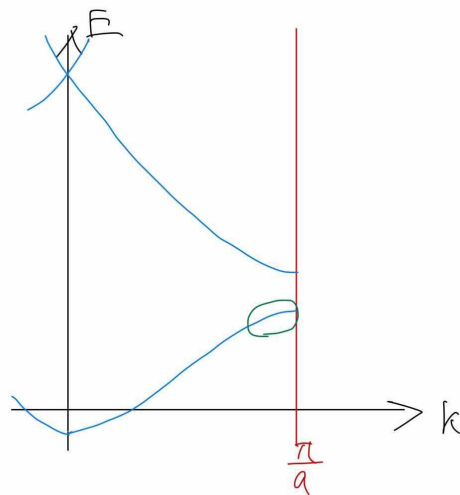


図 2 基底状態の分散関係